

### 自主防災組織の役割

#### 災害時

- ◆ 出火防止や初期消火活動
- ◆ 救出活動や救急処置を行う
- ◆ お年寄りや乳幼児、病人などの安全確保
- ◆ 避難誘導を行う
- ◆ 公的防災機関と連絡をとる
- ◆ 避難情報を伝達する



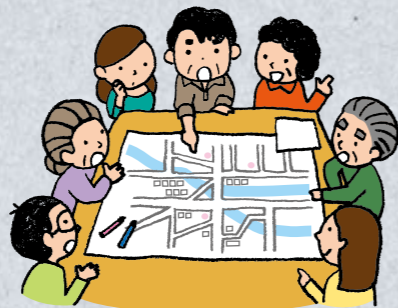
- ◆ 負傷者の把握を行う
- ◆ 消防機関に協力して活動する
- ◆ 防災関係機関からの情報を広報する
- ◆ 地域の被害状況を把握する
- ◆ 必要に応じて炊き出しを行う
- ◆ 食糧や応急物資の調達、配分

など

※ この中で、できることから取り組みましょう。

#### 平常時

- ◆ お年寄りや乳幼児、病人などの把握
- ◆ 応急医薬品、資機材を備える
- ◆ 危険箇所を確認しておく
- ◆ 避難場所への経路を確認しておく
- ◆ 火気器具の転倒防止などの呼びかけ
- ◆ 消火用水の確保、消火設備の点検



- ◆ 正しい防災知識の普及を図る
- ◆ 防災マップなどを作成しておく
- ◆ 食糧、飲料水などの備えを呼びかける
- ◆ 資機材の確保・点検
- ◆ 防災訓練を行う

など



バケツリレーによる初期消火訓練

安心・安全に暮らせる地域へ  
自主防災組織を結成しましょう  
強化しましょう

ご存知ですか？

阪神・淡路大震災では生き埋めや閉じ込められた際に自力で脱出したり、家族や近隣住民などによって救出された人の割合は90%を超えています。防災関係者など公的な救助機関によって助けられた人の割合はわずかに1・7%でした。

また、東日本大震災では、避難誘導や避難所運営、安否確認、炊き出しなどさまざまな支援活動が多く、地域の住民の力で行われ、地域の人の互いの助け合いが大きな役割を果たすことが改めて認識されました。

これらにより、自主防災組織や自主防災活動の重要性が全国的にも着目されるようになったのです。

#### 自主防災組織の活動

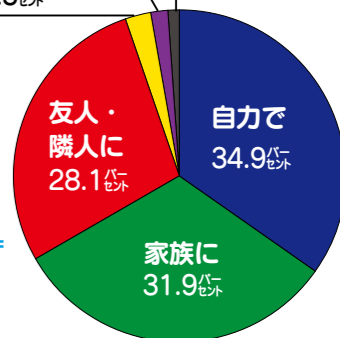
自主防災組織とは「自らの地域は、自らで守る」という心構えで地域の住民が自発的に防災活動を行う組織のことです。

自主防災組織の平常時の活動は「災害に備える」こと。防災訓練のほか、防災知識の勉強会や地域の安全点検なども含まれます。災害が起こったときに、迅速に効率的に行動できるような、何をしなければならぬのか、使える資機材は何かなど、事前にできる準備しておくことが重要です。

そして、災害時には、さまざまな事態が発生する可能性があり、地元の消防団や事業所などと協力しながら、初期消火活動や救出活動、避難誘導など地域の力を総動員して活動することになります。

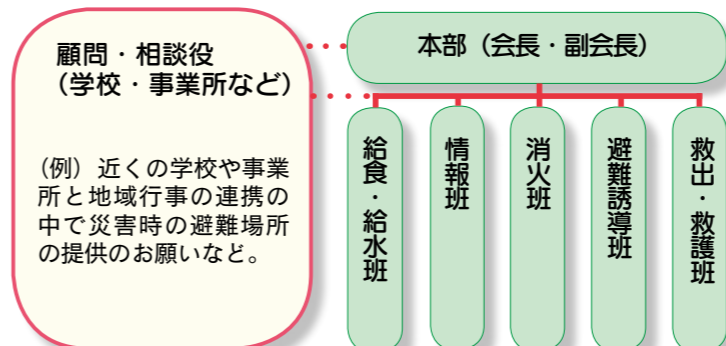
その他 0.9%

公的な救助機関に 1.7%  
通行人に 2.5%



阪神・淡路大震災の救助割合  
※「社団法人日本火災学会 兵庫県南部地震における火災に関する報告書」より

#### 自主防災組織の編成例



#### 舞鶴市の状況

8月1日現在、自治会単位の自主防災部127組織と、自治連合会や区長連合会からなる自主防災会8組織が結成されています。組織率は約53%ですが、活動内容は組織によって差がある状況です。

#### できることから始めましょう

自主防災組織は地域の現状に合わせて自由な形で作れます。まずは、「火を消す」「救助する」「安否確認」の3つが行える組織を目指しましょう。そして、活動を通して内容を徐々に充実させ、地域全体の防災意識を高めましょう。

